

新潟県立駒林特別支援学校 シラバス

1 キャリア教育の全体計画

(1) キャリア教育の目標

「社会参加するために必要な生きる力を身に付ける」

(2) 学部の目標(目指す児童生徒像)

部	学級	生きる力	生活する力	働く力	楽しむ力
訪問学級		いろいろなことを体験し、物事に自ら関わろうとする児童生徒。	生理的基盤や生活のリズムを整え、日常生活の基礎的な力を身に付ける。	教師からの働き掛けを受け止め、表情や身体の動きで返す力を身に付ける。	いろいろな遊びや活動を体験し、好きなことを見つけて、人やものに関わろうとする力を身に付ける。
小学部	重複	いろいろなことを体験し、物事に自ら関わろうとする児童。	生理的基盤や生活のリズムを整え、日常生活や集団生活の基礎的な力を身に付ける。	教師からの働き掛けを感じたり、自ら決めたりしながらいろいろな役割や活動に取り組む力を身に付ける。	いろいろな遊びや活動を体験し、好きなことを見つけて、楽しく取り組む力を身に付ける。
	普通	いろいろなことに興味・関心を持ち、物事に最後まで取り組む児童。	日常生活や集団生活に必要な力や学習の基礎となる力を身に付ける。	体験的な学習を積み重ねることや係・当番の活動を継続することを通して、自ら活動に取り組み、最後までやり遂げる力を身に付ける。	好きな活動に集中して取り組んだり、人と関わりながら楽しんだりする力を身に付ける。
中学部	重複	学校・家庭・社会の中で様々な経験を増やし、興味・関心をもって自分の課題や活動に取り組む生徒。	人と関わりながら、いろいろな経験を増やし、個々の自立へ向けての力を身に付ける。	しごとや学習や校内実習などを通して、周りの人とかかわりながら物事に継続して取り組む力を身に付ける。	好きなことを見つけ、教師や友達と楽しむ力を身に付ける。
	普通	家庭・学校・社会に対し興味・関心を広め、意欲的に活動に取り組む生徒。	社会生活への興味・関心を広め、いろいろな活動に取り組みながら生活に必要な力を身に付ける。	しごとや学習や校内実習などを通して、決められたことに時間いっぱい進んで取り組む力を身に付ける。	好きなことに取り組んだり、友達と一緒に楽しんだりする力を身に付ける。
高等部	重複	社会生活や職業生活への興味・関心を高め、自分の役割や課題に取り組む生徒。	身の自立に向けて、健康で安定した生活ができる力を身に付ける。	仕事を継続して行う力を養い、社会生活に必要な力を身に付ける。	好きなことを見つけ、余暇活動を行う力を身に付ける。
	普通	社会生活や職業生活への興味・関心を高め、主体的に自分の役割や課題に取り組む生徒。	社会で生活することの意味を理解し、きまりある生活ができる力を身に付ける。	職業生活や校内・職場実習などを通して、働くこと意識を高め、社会生活に必要な力を身に付ける。	趣味を広げ、友達と一緒に余暇を楽しむ力を身に付ける。

(3) 6つのキャリア教育の視点

生活する力		働く力		楽しむ力	
「やってみる」 集団生活での決まりやルールマナー、与えられた役割を果たすための視点	「くらす」 日常生活動作や交通機関、公共施設、商店を利用するための視点	「はたらく」 生活するために必要な役割を遂行したり、労働に従事したりするための視点	「かかわる」 挨拶、返事や自分の意思を表現したり、他者の意思を理解したりするためのコミュニケーションの視点	「たのしむ」 生活の中で余暇的なものを楽しむための視点	「からだ」 毎日を元気に過ごすための体力、健康、安全適切な対処を行うための視点

(4) キャリア教育の推進にあたって

- 生活する力、働く力、楽しむ力の3つのカテゴリから、個別の指導計画の目標を立てる。
- 6つのキャリア教育の視点を各部の年間指導計画に位置づける。
- 児童生徒一人一人について、6つのキャリア教育の視点の内容表の到達度チェックを適宜活用し、キャリア発達の状況を把握する。

2 しごと学習・職業生活学習全体計画

(1) 学部の働く力の目標

目 標	
高等部：(重複障害学級) (普通学級)	仕事を継続して行う力を養い、社会生活に必要な力を身に付ける。 職業生活や校内実習、現場実習などを通して、働くことへの意欲を高め、社会生活に必要な力を身に付ける。
中学部：(重複障害学級) (普通学級)	しごと学習や校内実習などを通して、周りの人とかかわりながら物事に継続して取り組む力を身に付ける。 しごと学習や校内実習などを通じて、決められたことに時間いっぱい取り組む力を身に付ける。
小学部：(重複障害学級) (普通低学年) (普通高学年)	教師からの働き掛けを感じたり、自ら決めたりしながらいろいろな役割や活動に取り組む力を身に付ける。 遊びや生活に即した体験的な学習を通じて、自分からいろいろな活動に参加し取り組む力を身に付ける。 係や当番の活動を継続することで、自ら活動に取り組み、最後までやり遂げる力を身に付ける。

(2) 学部の指導の形態と重点

○小学部重複障害学級の指導の形態と重点 (遊び学習・生活学習)	・やってみたい活動を選び、教師と一緒に取り組みながら、やり遂げた喜びが味わえるようにする。
○小学部普通学級の指導の形態のねらい (遊び学習・生活学習)	・一人一役の活動を継続して取り組めるように支援し、達成感が味わえるようにする。
○中学部の指導の形態と重点 (しごと学習)	・見通しをもって取り組めるように学習活動や一人一人に合わせた支援を工夫する。 ・人と関わることの楽しさを味わったり、経験の幅を広げたりできるように学習内容や集団構成を工夫する。
○高等部重複障害学級の指導の形態と重点 (職業生活学習)	・職業生活や校内・職場実習では、対人関係やコミュニケーション、体調が悪いときには相手に伝えられる手段の獲得や挨拶、継続して働く力、規律等を考慮した指導を工夫する。
○高等部普通学級の指導の形態と重点 (職業生活学習)	・職業生活や校内・職場実習では、継続して働く力や対人関係、コミュニケーションや挨拶、規律等を重視した指導を工夫する。

3 中学部しごと学習・高等部職業生活

(1) 中学部しごと学習

	リサイクル班	家庭班
学習活動	・小屋資材の整理整頓 ・紙すき ・紙を使った製品の開発と製品化 など	・布を使った製品の開発と製品化 など
重点	・見通しをもって取り組めるように学習活動や一人一人に合わせた支援を工夫する。 ・人と関わることの楽しさを味わったり、経験の幅を広げたりできるように学習内容や集団構成を工夫する。	
進め方	・実態に応じて、1つの作業種に個別の目標をもって完成までじっくり取り組んだり、友達と分業し協力して完成したりする。事業所を想定した学習環境を設定し、その中でみんなと一緒に楽しく協力し合いながら仕事を行う経験を積むようにする。将来の実習や就労へのイメージをもてるようにするとともに働きたいという意欲を高めていく。	

(2) 高等部職業生活

班	嘲	単元名	生きる力の視点	道徳の内容類との関連	目標	学習内容・備考
環境整備班	通年	「清掃」 「介護」 「環境整備」 「受託作業」		A(4)向上心、 個性の伸長 (5)希望と勇氣、 克己と強い意志 B(7)思いやり、 感謝 (8)礼儀 C(14)社会参画、 公共の精神 勤労	・周囲と言葉を掛け合い協力しながら、任された仕事の準備から後片付けまで進めることができる。 ・長時間の作業にも根気強く取り組むことができる。 ・正確丁寧に求められた時間で作業をすることができる。	「清掃」 ・職業技能検定に向けて、掃除機・自在ぼうきなどの清掃用具の扱い方を知り、使い方を身につける。友達と連携しながらビルクリーニングを進める。 「介護」 ・疑似体験などを通じて、利用者の立場に立ったサービスの提供を行う。 「接客」 ・挨拶や身だしなみなどの基本的な事柄を学ぶとともに、喫茶の学習などを行う。
リサイクルクラブ班		「リサイクル作業」 「布製品作り」 「紙すき・紙工芸」	はたらく やってみる		・準備から後片付けまで1人で作業を進めることができる。 ・長時間の作業にも根気強く取り組むことができる。 ・正確丁寧に製品を作り上げることができる。	「リサイクル作業」 ・空き缶やペットボトル、新聞等、リサイクル業者に引き渡すためつぶしたりまとめたりする。 「布製品作り」 ・布の型どりや裁断、ミシンを使っての縫製などを行う。 「紙すき・紙工芸」 ・主に牛乳パックの再生紙作りと、編み込みでの製品作りを行う。
農工芸班		「農作業」 「陶芸」 「ガラス・ビーズ」 「木工」			・準備から後片付けまで1人で作業を進めることができる。 ・長時間の作業にも根気強く取り組むことができる。 ・正確丁寧に製品を作り上げることができる。	「農作業」 ・ジャガイモ、枝豆、ねぎ、かぶ、大根などの農産物の育成、収穫などを行う。 「陶芸」 ・皿、お椀などの陶芸製品作りを行う。 「ガラス・ビーズ」 ・箸置きやガラスの装飾品、ビーズの装飾品作りを行う。 「木工」 ・本棚、椅子、コルクボード、長手盆などの木工製品作りを行う。

4 校内実習

(1) 学部・学年ごとの主なねらい

高等部2・3年	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験をもとに、仕事をする上での態度や技術の手本を後輩に示す。 職場実習で学んだことや自己の課題解決を校内実習でも実践する。
高等部1年	<ul style="list-style-type: none"> 受注業務での実習を経験して、より実践的な作業態度や技術等を身に付ける。 職場実習に出るための意欲と自信を身に付ける。 将来の就職・実習に向けての自己の課題を意識して、目標を立てることができる。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 長時間の作業を体験することを通して、勤労に対する関心と意欲を高める。 作業を通して個々の能力や特性を明らかにし、卒業後に必要な技能や態度を育成する。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 「しごと学習」を体験したり、働く人の姿を見学したりすることにより、「働く」イメージをもつことができる。 <p>※小学部6年生は、「しごと学習」を1回体験する。中学部3年生は1回体験する。</p>

(2) 学部ごとの作業内容と身に付けたい力

「卒業後の就労に必要な働く力を身に付け、自己実現をしていくために」

高 等 部	作 業	キッチンツール 組立	ギフト箱折り	メーター分解	だいたい袋詰 め など	アルミ缶つぶし 新聞束ね
	身に付けたい力	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶・報告・返事 ・作業を続ける力 ・効率よく作業する力 指示を理解して正しく行う力 など 				
中 学 部	作 業 班	リサイクル班 家庭班				
	身に付けたい力	<ul style="list-style-type: none"> ◎職場で愛される人になるために必要な力 挨拶 ・報告 ・返事 ・やる気が感じられる表情・態度 ・言葉遣い 時間を守る ・身だしなみ、身支度を整える 				

5 職場実習

(1) 目的

- ① 社会で働く人たちとの交流や労働体験を通して、「仕事」の厳しさや成し遂げる「達成感」を実感し、生徒の勤労観や職業観を育てる。
- ② 多様な経験を通して、生徒が自分の適性や自らの進路を積極的に考え、卒業後の進路を自己選択・自己決定する力につなげる。
- ③ 一人一人に必要な職業生活（社会生活）にかかわる実際的な知識と能力を高める（健康管理や交通機関の利用、余暇の過ごし方、時間の管理を含む）。
- ④ 社会とのつながりを感じ、褒められ・認められることで自己肯定感を得るなど、普段の学校生活や家庭生活では得られない教育的刺激を受けることにより、生徒の内面的な成長を図る。

(2) 対象学年及び実施時期

前期 (6月)	高等部2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス事業所は2週間以内を基本とする。 ・企業で実習を行う場合は2週間程度を基本とする。
	高等部3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス事業所は3週間以内を基本とする。 ・企業で実習を行う場合は3週間程度を基本とする。
後期 (9月～10月) <small>※福祉サービス事業所</small>	高等部1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・希望により福祉サービス事業所で実習を行うことができる。 ・1週間以内を基本とする。
	高等部2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス事業所は3週間以内を基本とする。 ・企業で実習を行う場合は3週間程度を基本とする。
	高等部3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス事業所は4週間以内を基本とする。 ・企業で実習を行う場合は4週間程度を基本とする。

(3) 職場実習に向けてのチェックリスト

	項目	チェック内容	評 定
日常生活	1 衛生・清潔	衛生面に気を付け、清潔にしている。	A 自分で意識している。 B 定期的な点検が必要 C 常に支援が必要
	2 身だしなみ	場に応じた身だしなみを整えることができる。	A 身だしなみを意識して整えている B 点検と言葉掛けが必要 C 意識していない(常に支援)
	3 安全管理	安全を考えて行動したり、危険を回避できたりする。	A 安全に気を付けて行動できる B 見守りなど注意が必要 C 身体的支援が必要
	4 きまりの遵守	きまりやマナーを理解し、守ることができる。	A 理解し、守ることができる B 指摘されて改める C 理解できていない(守らない)
	5 時間の遵守	時計を見て判断し、行動することができる。	A 自分で判断して行動できる B 言葉掛けで行動する C 身体的支援が必要
	6 出席・出勤	出席日数や出席時間を守る。 (「始業前に遅刻、欠席の連絡をする」ことも含む。)	A 遅刻・早退・欠席が(ほとんど)ない B 遅刻・早退・欠席(月1回程度) C 遅刻・早退・欠席(週2回以上)
対人	7 挨拶・返事	場面に応じた適切な挨拶や返事ができる。	A 自分から進んでできる B 働きかけがあればできる C 働きかけがあってもできない
	8 指示理解	話をよく聞き、指示を正しく理解する。	A 指示が(ほぼ)理解できる。

関係			B 確認や言い換えが必要 C 指示を理解できない
	9 言葉遣い	相手や場面に応じた言葉遣いをすることができる。	A 適切な言葉遣いができる B 確認や助言があればできる C 適切な言葉遣いができない
	10 情緒の安定	自分で感情をコントロールすることができる。	A 常に安定している B 言葉掛けで安定できる C 落ち着くまでに時間がかかる
	11 協調性	まわりの人たちとよい関係をきずくことができる	A 周りの人と仲良くできる B 助言や働きかけが必要 C トラブルになることがある (または人と関われない)
作業態度	12 作業意欲	自分から進んで作業に取り組むことができる。	A 進んで作業に取り組む B 関心、意欲がやや低い C 関心、意欲が感じられない
	13 集中力	決められた時間内は集中して作業することができる。	A 時間内、集中している B 集中が切れることがある C 作業が中断する時間が多い
	14 報告	仕事の終了などの報告をすることができる。	A 自分から進んで報告ができる B 働き掛けがあればできる C 働き掛けがあってもできない
	15 質問	分からないことがあったときなどに質問できる。	A 自分から進んで質問できる B 働き掛けがあればできる C できない (わからないままにする)
	16 片付け	整理整頓や片付けをすることができる。	A 進んで片付けができる B 働き掛けがあればできる C 関心がない (または身体的支援が必要)
作業技能	17 正確性	指示されたとおりに正確に作業する。	A 指示どおり正確に作業できる B 若干の不良がみられる (不良を出さない。手順通りに作業する。) C 半分以上の不良がみられる
	18 継続力	決められた時間内は作業を継続することができる。	A ペースを落とさず作業できる B ペースは落ちるが継続できる C 作業を続けることができない
	19 修正	注意や助言を受けたら、直すことができる。	A 注意されたとおりに直す B 点検や支援が必要 C 注意を受け入れることができない
	20 作業能率	慣れるに従って作業能率(出来高、作業量)が向上する。	A 作業能率が向上する B 作業能率は変わらない C 作業能率の低下やムラがある